

第3回蒲郡市住生活基本計画策定委員会 会議録

開催日時	令和2年10月1日（木）午前10時から正午まで
開催場所	蒲郡市役所 本館3階 304会議室
出席者	<p>【委員長】 名古屋大学 教授 小松 尚</p> <p>【委員】 蒲郡市総代連合会 副会長 金田 博充 蒲郡商工会議所 専務理事 山下 英孝 蒲郡市社会福祉協議会 事務局長 岡田 隆二 蒲郡市ボランティア連絡協議会 藤田 智江 蒲郡市子育てネットワーク連絡会 小林 浩子 愛知建築士会蒲郡支部 支部長 市川 昌寿 愛知県宅地建物取引業協会東三河支部 羽賀 浩正 愛知県建築局公共建築部住宅計画課長 池田 孝洋（代理出席） 蒲郡市建設部長 鈴木 伸尚</p> <p>【事務局】 建設部建築住宅課 課長 孕石 勝也 係長 永谷 礼子 主事 加藤 喬士</p> <p>【委託業者】 ランドブレイン株式会社 2名</p>
議題	<p>1 あいさつ</p> <p>2 蒲郡市住生活基本計画について</p> <p>(1) これまでの策定状況及び今後の策定スケジュールの確認</p> <p>(2) 基本目標と施策の方向及び取り組む施策の確認</p> <p>(3) 策定委員の意見と対応する施策の確認</p> <p>(4) 計画書（素案）の確認</p>
会議資料	<ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・蒲郡市住生活基本計画策定委員会名簿 ・蒲郡市住生活基本計画の策定スケジュール【資料1】 ・住宅施策の体系（基本方針・基本目標）【資料2】 ・住生活基本計画 施策調査（まとめ）【資料3】 ・第2回策定委員会における委員からの意見整理【資料4】 ・住生活基本計画（素案）【資料5】 ・外国人アンケート調査結果【別紙1】 ・第2回策定委員会の議事録【別紙2】 ・蒲郡市のアンケート調査結果（一般市民）の分析と他市アンケート調査結果との比較【参考資料1】

会議内容	<p>1 事務局説明</p> <p>2 委員長挨拶 本日は議題に住生活基本計画の素案の検討がある。時間を割いて、皆さんからのご意見をいただきたい。</p> <p>4 蒲郡市住生活基本計画について (1) これまでの策定状況及び今後の策定スケジュールの確認 配布資料1、別紙1・2に基づき事務局が説明。 委員長： 外国籍の方のアンケート調査結果（別紙1）について、調査数は35世帯と限られているが、色々とわかっていくことがあると感じている。長くお住まいの方が一定数おられ、その方は市営住宅が多い。それから、6ページでは9割の方が蒲郡市に住み続けるつもりで、理由は読み取れないが、住み続けたいということは、それなりにフォローアップが必要になってくると思う。蒲郡市に期待することとして、コミュニケーションについて通訳が欲しいとか、地域との円滑なコミュニケーションの支援を求める意見もある。最後のページのデータから、世帯別人員をみると、1人世帯が2/3となっているので、単身で来て働いている方が多いのも特徴だと思う。 蒲郡市民を構成する外国籍の方にも目を配ろうと実施したアンケートである。これからの計画策定においても参考にしたいので検討をお願いする。</p> <p>(2) 基本目標と施策の方向及び取り組む施策の確認 配布資料2・3に基づき事務局が説明。 質疑応答（発言順） 委員長： 資料2について、基本目標5と基本目標6の部分で、変更前と変更後とあるが、変更した内容について説明をお願いしたい。</p> <p>事務局： 基本目標5については、「質の高い住宅とニーズに応じた住宅と住環境の整備」となっており、変更前は住宅に関わる記載だけだったが、子育て世帯が重要なことと感じている「周りの道路の歩行時の安全性」や「子どもの遊び場、公園など」に対応する施策として、安心して移動できる歩道の整備や公園の整備を追加し、「誰もが安心して暮らし、気軽に外出することができるような住環境の整備」という文章を記載した。 基本目標6については、第2回策定委員会で委員の方からいただいた「企業誘致や雇用拡大に力を入れて欲しい」という意見と各課から出された施策の内容を整理し、内容を蒲郡のまちの魅力を活かした住環境の整備を進め、企業誘致や地域産業の活性化などの内容を加え、定住を促進する施策を進めるという内容に変更した。</p>
------	---

委員長：

今後、立地適正化計画が改正となり、災害危険度が高いところを避けるという立地に関する考え方が入ってくる。その立地に関する考え方の記載は必要ないか。

「子育てしやすい住環境づくり」とあるが、子育ては親からの視点であり、子どもがどう成長していくかという「子育て」の視点が必要ではないか。言葉を入れていくところから始めていくのはどうか。新型コロナウイルスの影響で子どもたちの学習の場が住宅になるなど、子どもが成長していく環境が変わってきていることをどう捉え、どう施策としていくのかを考える必要があるのではないか。

「良質な住宅ストックの形成」について、介護保険サービスによる住宅改修や障がい者に対する支援策はあるが、長期優良住宅等の一般の住宅の質を向上させるような施策の推進が必要ではないか。

A委員：

愛知県の計画は、来年度末にかけて見直しを進めていく。

現計画の達成状況を整理すると、住宅のバリアフリー化が進んでいない。その要因として、高齢者になる前の65歳未満の方の住宅のバリアフリー化が遅れているためと考えられる。また、子育てしやすい住環境について、3LDK程度を子育てに適した規模としたいが、なかなか住み替え等が進んでいない状況である。

計画の見直しでは、防災性の高い住まいについて、感染症のリスクを含めた自然災害への対策や、感染症のリスクを考慮した新しい住まい方、働き方、学び方を計画に盛り込んでいけたらと考えている。空家について、空家の活用のためにはリフォームも重要になってくるのではないかと考えている。世代を超えて長く使い続けることができる良質な住宅ストックの形成では、愛知県では戸建て住宅が中心だが、長期優良住宅の制度が始まって11年になり、全国1位である。このシェアをあげていきたいと考えている。シェアは、愛知県ではトヨタホームのシェアとリンクしてくる。標準仕様で大手企業の長期優良住宅の普及が多いと認識している。これを広げていくためには、大工さんの育成などにより底上げをしていく必要があると考えている。大きな話になるが、東京、大阪、名古屋の7,000万人の大都市圏というスーパーメガリージョンという言葉があり、名古屋はその中心ということを活かして、人を世界から呼び込むという視点でのまちづくりを計画に盛り込めないかと検討している。また、自動運転やAIなどの新技術にも、まちづくりという視点で触れていければと考えている。

委員長：

愛知県の動きについても情報を得て、足並みを揃えていただければと思う。

B委員：

資料2の「施策の方向、取り組む施策」の欄の下部に「モノづくりパンフレットによる市内製造業PR」と「企業紹介パンフレットによる市内企業PR」とあるが、重複している部分があるように感じるので、整理をしていただければと思う。このパンフレットは企業の採用活動にも役立っていると聞くので、わかりやすくしていただき、広く周知して欲しい。

委員長：

この施策について、重要な施策だと思うが、どのように定住促進に結び付くのか見えにくいので、どのように定住に結び付くのか、観光や企業立地、他課の施策がどう住生活の向上に関わるのかという視点で書き方や見せ方等を工夫し、見直していただきたい。

(3)策定委員の意見と対応する施策の確認

配布資料4、参考資料1に基づき事務局が説明。

(質疑なし)

(4)計画書(素案)の確認

配布資料5に基づき事務局が説明。

C委員：

53ページの「空家の適正管理・予防」で空家の未然防止を考えると、バリアフリー改修や、設備更新などを行い、空家になったらすぐに売ったり貸したりできる状態にしておくことが考えられる。リフォームに関連する施策を考えていただきたい。また、市外の方は、海に近いことで水害を気にしている方が多い。いくつかに分かれている水害のハザードマップを分かりやすくまとめて、見やすくしたものを周知すると良いと思う。

委員長：

今のご意見は検討をお願いしたい。

計画書(素案)44ページの第3章以降は、この場だけでご意見をいただくことは難しいので、この会議の中では、各委員の視点で、お気づきの点をご質問、ご意見いただくこととし、同時に、持ち帰り、確認いただいて、お気づきの点を伝えていただくこととしたいと思う。事務局よろしいか。

事務局：

はい。来週末10月9日金曜日までをお願いします。

D委員：

47ページの「高齢者、障がい者が安心して暮らせる住まい・まちづくり」について、先日、車いすの方と移動した際に歩道から横断歩道へ行く際に段差が気になった。安全に移動できる

まちづくりを目指してほしい。48ページの「外国人が住みやすい住環境づくり」について、地域支え合い座談会の中で、ゴミの問題が話題になり、外国人の方にも、地域のルールを伝えることが大事だという意見が出た。外国人の方に地域のルールを伝えるような場が必要だと思う。49ページの「高齢者や障がい者等の移動制約者の移動手段の確保」について、以前、目の不自由な方で交通の便が悪いために市営住宅への入居を諦めた方がいたので、くるりんバス等があると良いと思う。

E委員：

参考資料1について、蒲郡市の耐震化率が他市に比べて非常に低いのが、原因はどんなことが考えられるか。

事務局：

耐震化率の算出方法については統一的な基準がなく、それが要因と考えられる。住宅・土地統計調査から算出している市町村もあるが、蒲郡市は課税台帳を基に算出している。また、蒲郡市は高齢者が多く、旧耐震の住宅が多いことも原因だと考えられる。

F委員：

将来指標について、住生活基本計画は住まいを中心とした徒歩圏の充実の計画とあるが、このことを計るのに相応しい指標はどんなものがあるか。

委員長：

例えば、歩道や公園などの住宅以外の徒歩圏にある空間資源に対する評価の推移や、生活は住宅だけでは成立しないので、生活に必要な社会サービスが整備されているかどうかなど住生活以外の指標を確認することが考えられる。58ページで設定されている将来指標は住宅中心のハードウェアに関するものが多いので、満足度等を入れてみてはどうか。

F委員：

例えば、「子育てしやすいまちだと思うか」というようなことか。

委員長：

それも大事なことだと思う。公園や公共施設が量的にはあるが、配置が良くないために使いづらいなども考えられる。10年後に計画の検証ができるような指標があると良い。数や量だけではなく、市民の意見等も大事である。また、アンケートや満足度だけではなく、ワークショップ等で市民の声を聴くことも考えられる。

蒲郡市では子育て環境に「子どもの遊び場、公園など」が重要だと考えている方が多いが、市民の方が、公園の数や広さや

機能など、具体的にどういうことが重要だと考えているのか、何を不満だと思っているのかはアンケート調査では分からないため、この点を把握できるとより実効性の高い計画となる。そのため、市民の方の声を聴くことは重要である。

G委員：

地域支え合い座談会で様々な意見が出るが、その意見をくみ上げていただき、座談会や他の組織間の横の繋がりを強化し、出た意見を有効活用してほしい。

委員長：

市民の声については、計画書60ページの3番目に、市民との連携が記載されている。今いただいたご意見は、実質的に動かして欲しいということだと思う。実際に住生活基本計画を一つ一つ動かしていくことになると、当事者や関係者の方々の意見をくみ取っていくプロセスを計画の中に組み込むことを行ってほしい。当然、時間がかかるので、時間を確保することが大事なことである。特に生活と直結している徒歩圏の計画としているので、丁寧をお願いしたい。

H委員：

以前支援していた高齢者の方が買い物等の交通手段に非常に苦労していた。便利な場所への住み替えも提案したが、住んでいる場所が住みやすく、買い物等の負担も大きいのが、住みやすさに満足していた。指標にすることは難しいと思うが、慣れ親しんだ住みやすさという考え方もあると思う。

委員長：

狭あい道路の課題もあったが、狭あい道路は車側から見れば不便だが、歩く人から見れば使いやすい部分がある。両立できないところもあるが、そのような点に目配りや心配りができるような計画であってほしい。

また、資料4で反映されていない部分はどうか。

事務局：

国や市の総合計画の動向を確認しながら次回までに記載する。

委員長：

テレワーク等はずぐには変わらず継続されると思うが、企業もこれから就業形態を変えていく可能性がある。就業形態と住まいは直結しているので、今まで当然のように別であった住まいと職場がこれから近接することや、同一になっていくことが考えられる。10年先を見据えた計画なので、現時点で具体的な施策を記載することは難しいと思うが、問題意識を記載することは前向きに検討してほしい。

	<p>B委員： 蒲郡市まち・ひと・しごと創生総合戦略にはSDGsが記載されていて、7月には、蒲郡市と蒲郡商工会議所と地元信用金庫等でSDGsに関する協定も締結した。住生活基本計画においては、SDGsとの関連をどのように考えるか。</p> <p>I委員： 第五次蒲郡市総合計画では、SDGsの考え方を導入していくようなので、この計画にも導入したほうが良いと思う。</p> <p>委員長： SDGsは国も推進しており、国際的な目標にもなっている。記載しておくことが指針を示すことにもなるので、関連性についての記載は必要だと思う。 最後に、公共施設の管理計画を策定していると思うので、その計画との関連性を記載していただきたい。特に、公共施設に関する施策については具体的に記載していただきたい。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
--	--